

出雲市佐田町反辺のイズモコバイモ群生地における結実調査

三浦憲人（ホシザキ野生生物研究所）

イズモコバイモ *Fritillaria ayakoana* Maruyama et Naruhashi は島根県固有種であり、3月中旬に開花し、樹木の展葉前には休眠するスプリング・エフェメラルと呼ばれている。本種の命名に用いられた標本が採取された出雲市佐田町反辺の自生地の近くでは、個人宅裏山の私有地において約 300 m²の大きな群生地が維持されてきた。この群生地は 2019 年より「発見地反辺のイズモコバイモを守る会」によって維持管理が行われており、3月の開花シーズン時のみ一般公開されている。そして、この公開日の最終日に開花数の調査が行われている。2020年に1950株であった開花株数は、年を追うごとに増加し、2024年に8696株を記録した。開花株数が順調に増加している一方で、結実率に関しては1割程度からそれ以下の低い値で推移している。この結実率の低さの原因を明らかにするため、人為受粉および自然受粉による結実率の比較と花粉の送粉に関わる生物について、虫網とトラップによる採取を試みた。

2025年3~4月に行った調査では、人為受粉を行った株の結実率は69.7%であった。一方、自然受粉による結実率は54.9%であった。前年までの調査と比較して、自然受粉による結実率は高い値を示し、人為受粉ともそれほど大きな差はみられなかった。次に訪花している生物に関して、ケシキスイの仲間やピロードツリアブなどを採取した。ケシキスイの仲間は花の中でとどまっているところを確認されることが多く、ほかの花との間を移動している様子は確認できなかった。また、ほかに虫網やトラップによって採取された生物の中にも、花粉の送粉に関わっていると思われる生物を確認することができなかったことから、花粉の送粉には、今回採取されていない生物が存在している可能性が考えられた。



綿棒を使った人為受粉



イズモコバイモの果実